

## NEWS RELEASE

2020年8月5日

日本豆乳協会

SOY2008

### 日本豆乳協会

#### 2020年4-6月期における豆乳類の生産量が110,840kℓを達成

～ 新型コロナウイルスの影響による在宅時間の増加に伴い、  
家庭内での豆乳の摂取がさらに普及し106.2%に ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2020年4-6月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は110,840kℓとなり、前年と比べ、6.2%増を記録し「豆乳（無調整）」を中心に市場が伸長しています。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、最も伸び率が高いのは「豆乳（無調整）」で、生産量は33,001kℓ（125.9%）となりました。また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、53,345kℓ（100.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は、5,029kℓ（112.0%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、16,982kℓ（105.9%）とすべてのカテゴリーにおいて（業務用を除く）、生産量は順調に拡大しており、出荷量においても生産量と同様の傾向を示し、四半期で11万kℓを達成したのは、初めてになります。一方で、主に業務用として生産している「その他」に分類される豆乳においては、2,483kℓ（53.1%）で減少となりました。4-6月期においては、引き続き、新型コロナウイルスの影響により、在宅勤務や学校の休校も増え、さらには、ゴールデンウィークも自宅で過ごす家庭が大幅に増えたことから、家庭内での消費量は大幅に増加しました。一方で、緊急事態宣言が出され、外食の機会の減少に伴い、飲食店へ卸す業務用豆乳の生産量は昨年を下回りました。

豆乳協会では、生活者が、豆乳の特長や成分の優位性に触れる機会が増えたことが後押しとなり、4-6月期においては、「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」などの豆乳愛飲者のリピート購入、料理需要が拡大、さらには豆乳飲料を凍らせたり、ゼラチンなどを用いて調理する新たな食べた方も浸透したことが市場拡大の要因になったと考えます。新型コロナウイルスの影響により、外食を控えたり、生活者の買い物の仕方にも変化が現れ、長期保存が可能な豆乳の需要がさらに高まったことも、一因とみています。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2015年2.4ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル  
田中/西岡

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017